



いいねをいっぱい届けたい

— 目次 —

P02・組合長あいさつ

P03・インフォメーション

P04・【新春特別座談会】

P10・ふるさと産品

令和6年を振り返る

P16・第26回

女性大会・家の光大会

P18・バラエティコーナー

P20・営農経済部からの

お知らせ



ふるっぴ



JA秋田ふるさと





秋田ふるさと農業協同組合
代表理事組合長

佐藤 誠一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年も全国各地で豪雨や台風などによる甚大な自然災害が発生しました。管内において7月豪雨は家屋の浸水と収穫盛期を迎える西瓜や大豆の冠水で大きな被害をもたらし、猛暑の連続と長い夏も相まって多くの作目で収量低下となりました。高温対策と圃場の排水対策強化を掲げ生産に臨んだだけに自然と対峙する農業の難しさを痛感しています。

しかし、供給不足による高単価と米概算金の大幅アップもあり、6年度農畜産物販売取扱高は220億円を超える見込みです。皆様が生産現場で汗をかき、絶え間ない努力を重ねられた結果でございます。心から敬意と感謝を申し上げます。これからも全国に誇れる複合産地を目指す基本である「安定した量の確保と質の向上」を肝に銘じて取り組み続けてまいります。

さて、食糧安全保障の強化を前面に食糧農業農村基本法が改正され、時代は農政大



転換期に入りました。水田政策での新たな制度・法制化では合理的な価格形成を含め、生産者・消費者が共に理解し実行できる施策を整理していただきたいと思えます。

令和の米騒動と言われる5年産米の不足に端を発した価格高騰も一過性であつてはいけません。騒動とは、秩序が乱れることです。このこともしつかりと検証し、皆様とともに知恵を出し合い悩みながら農業の未来に議論を深めてまいりたいと思えます。皆様に大変ご心配をおかけした新本店も初めての正月を迎えることができました。立体駐車場の建設完了まで時間を要しますが、ふるさと農協を最大限発信してまいり所存でございますので、よろしくお願いいたします。

皆様が安心して持続可能な農業経営を実現できる基盤構築に向かって、役員一同「頭は低く、足は軽く、心は熱く」を行動指針に頑張つてまいります。

本年も引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

初春のお慶びを

申し上げます

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|-------|
| 代表理事組合長 | 佐藤 誠一 | 理事(大館地区担当) | 高橋 稔 |
| 代表理事副組合長 | 佐藤 寿一 | 理事(大森地区担当) | 加藤 司 |
| 代表理事専務 | 高橋 司 | 理事 | 菊地 寛之 |
| 代表理事専務 | 柿崎 大二朗 | 理事(千文字地区担当) | 小西 與一 |
| 理事(金沢地区担当) | 本間 恒 | 理事 | 柿崎 孝一 |
| 理事 | 加藤 堅之助 | 理事 | 藤原 英樹 |
| 理事(鷹手地区担当) | 柴田 多一 | 理事(増田地区担当) | 鈴木 敏美 |
| 理事(山内地区担当) | 中村 正子 | 理事 | 田中 隆 |
| 理事 | 加藤 智記 | 理事 | 神谷 光子 |
| 理事 | 小田嶋 契 | 理事 | 福田 節子 |
| 理事 | 木村 公夫 | 代表監事 | 眞田 久之 |
| 理事(平鹿地区担当) | 柴田 忍 | 理事 | 佐藤 和弘 |
| 理事 | 高橋 孝太 | 理事 | 松井 均 |
| 理事(雄物川地区担当) | 堀田 忠久 | 理事 | 佐藤 尚史 |
| 理事 | 小西 均 | 常勤監事 | 渡邊 登 |
| 理事 | 東海林 光博 | 員外監事 | 佐藤 秋弘 |



りんご部会 市長へ表敬訪問

りんご部会は12月4日、主力品種「ふじ」の収穫が概ね終了したことから、令和6年産の出来と「銀世界りんご」をPRするため、高橋大横手市長を表敬訪問しました。田中正博部会長は「8月以降の天候が栽培に適した気温だったため糖度の高い良いりんごができた。大玉傾向だったことも喜ばしい」と報告しました。



▲「銀世界りんご」をPRする田中部会長（左）と高橋市長（右）

横手市 JA秋田ふるさと 農林水産委員長へ要望書提出

高橋大横手市長と佐藤誠一組合長は12月12日、御法川信英衆議院農林水産委員長へ「将来にわたって安定運営できる水田政策の確立を求める要望書」を提出し、食糧安全保障の観点からも重要な交付対象水田に関する考え方の再度見直しや、多様な食糧の生産振興に資する施策の構築を強く要望しました。



▲御法川議員（中央）に要望書を提出する佐藤組合長（左）、高橋市長（右）

令和6年度 第2回 横手市就農相談会

農業をはじめるとあたっての疑問や不安を相談しませんか？

1/19 日 9:00 ~ 16:00

会場：横手市園芸振興拠点センター

（〒013-0354 横手市大雄字狐塚253番地）

ご予約は
1/15（水）まで

農業を始めたいけどどんな準備をしたらいいの？

農業研修ってどんなかんじ？

ご予約は
こちらから→



お問い合わせ

横手市農林部食農推進課
TEL 0182-35-2267
Mail shokuno@yokote.lg.jp

【新春特別座談会】



J A秋田ふるさと理事

中村 正子

J A秋田ふるさと理事

福田 節子

J A秋田ふるさと理事

神谷 光子

J A秋田ふるさと副組合長

佐藤 寿一

J A秋田ふるさと専務理事

柿崎 大二郎

女性の活躍は 地域農業の活性化につながる

男女共同参画社会の実現は、日本において達成すべき必須の課題。JAの女性役員3人と女性の組合員加入や総代・理事などへの参画を広く伝えるべく佐藤寿一副組合長と柿崎大二郎専務と語り合います。

J A女性役員を務めて

柿崎 家庭もあり、そしてJAの理事としても、地域のために活躍されている3人の皆さまに、男女共同参画や国の指針を勘案しつつ、女性の管理職の登用や働きやすい環境作りについて、女性視点で語って頂きたいと思います。本日は宜しくお願いたします。

神谷 今まで女性部長としてJAへ要望を出す立場でした。部長職が一区切り付き、理事のお話をいただき、お受けしました。

経営に関わることですからやっぱり不適切なことはできません。毎日の私生活の中でも気を抜けませんし、それがすごく自分に対して戒めになっています。女性部活動などを通じてJAのAコープ商品や、伝統食を広める形で何でも宣伝して行きたいと思っています。JAに興味を持ってもらうことを第一に考えております。

一期の半ばを超え、残りの任期では女性と女性部員の皆さんにJAに対して関心を持ってもらい、自分のための勉強、興味ととらえ活動に参加して頂けるよう、私が示して行けるように広めていきたいと思っています。



理事

■ 神谷 光子 (横手)

- ・令和5年6月～JA秋田ふるさと理事。現在1期目
- ・平成25年4月～令和3年3月JA秋田ふるさと女性部部长
- ・平成31年4月～令和3年3月JAあきた女性部協議会会長
- ・平成31年4月～令和3年3月JA全国女性組織協議会東北ブロック監事

介護の経験を持つ。家庭での野菜作りの傍ら、米粉を使った料理の普及や地域伝統食の継承活動を実践しており、料理講習会等の講師も務めている。

●好きなこと／得意な事
台所に一日いられること

中村 家事や農作業については常勤時厳しい状態だったと振り返っています。JAの役員に就き10年目となります。女性枠は2期6年の枠が与えられていますが、理解して任期を全う出来るのかとの思いがありました。

3期目からは、一般枠から推薦を受けました。地域に与えられている定数に選挙制のときでも理事のなり手が少ない中で、「そこに女性を出すのか」という声もあり、やはり周りの理解と後押しをしてくれる人がいなければ、女性はそういう立場にはなれない現実を実感しています。ただ、10年間の一つ一つの積み重ねが良い経験となり、多くの出会いがあり、そして支えてくれる仲間も増えました。理事であるからこそ苦難もありますが、得るものも多い。そういう経験が無形の財産だと感じ

ています。実践して10年目だからこそ理解できる財産なのだと実感しています。

また、女性枠が設けられて13年。最初は家族に反対されました。それから3年後にまた声をかけていただいた際、主人が「挑戦してみたら」と言ってくれたため、理事に一步踏み出すことができました。家族の理解がなければ女性は何にも踏み出すことができない、難しいと感じました。

柿崎 一般枠からも出なければ、この女性役員比率の目標数値も達成できません。役員削減前は7・7%でした。今も10%に満たない9・4%です。現状で目標の15%を達成するには、女性理事が5人いなければなりません。達成が難しい目標だと感じます。

福田 たばこ栽培については常に家族人数がいないと難しい仕事です。まして面積も多く、その中でいつも家事があるためJAのことは全て主人へと、全部人任せでした。理事というお話を一度は断りましたが、挑戦だと思い理事職に就きました。やはり、JAの役割や組合員の訴え意見が聞こえてくる中で、農家のために何か一つでもやらなくてはという気持ち湧いてくるものでした。

とにかく今は、自分の責任として行動するという気持ちに変わり、家族も応援をしてくれており、ありがたいと思います。理事として頑張りたいと実感しております。

柿崎 やはり同じように家族の支えがあつてできること、理事になったときに、農家のためという思いが一番の原点なのだと思います。こういった視点で進めていただければ本心に心強いなと思います。

男女間で差があると感じた経験

中村 降雪時にブドウ棚を巡回し、剪定作業時にノコギリやチェーンソーを使いますが、男性とパワーが違うため、農作業に倍以上の時間が掛かってしまいます。男性には男性の良さがあり、否定し合うのではなく、



お互いに尊重し合い認め合っていくのが、男女共同参画・男女共生になるのだと感じています。

柿崎 やはり我々では気付かないところが意外とあります。先日若い女性の農業者の方とお話したとき、ハーフソイラの貸し出し事業をJAで行っているのですが、よかれと思い、「皆さんこれ使ってください」と勧めるのですが「いや付け替えるのが私できません」と言われたことがあります。取り付けにはコツもいるし力もいるしそういった視点を持つっておくべきだったと私も思い知らされました。

神谷 やはり女性と男性と言ってもそれは必ず同じことをしなければダメだという事ではなく、自分が得意

とする分野を家庭でも仕事でも生かしていけば、生きやすいのではないかと気付かされますよね。

当JAの女性管理職登用にについて

柿崎 当JAの女性管理職登用の現状は課長級以上が16・6%、補佐級以上は45%、となっています。

これに対し、政府が出す目標値は30%余りという高い目標を掲げており、全国のJAでは係長以上が22・1%、課長級で12・5%以上、部長級となれば4・2%となっておりません。この実態についてご意見を頂戴したいと思います。

中村 JA秋田ふるさととは女性参画・女性管理職登用に先駆けているJA。例えば女性管理職の登用に関しても早いと言われています。私が

全県会議に常勤役員として出務すると一目置かれていました。「さすがJA秋田ふるさとは進んでいる」と。

一方で、役員ではなくても管理職を断る人が多く、職務遂行に不安を抱えている人がとても多いと新聞記事にありました。役職に就いた重責に性別はありませんが、女性の場合には特に不安に思うケースがあると感じています。今言われているワークライフバランスについて、女性が家庭も仕事も管理職も行うことは、周りの理解が必要です。

女性の私が過去にPTA会長を任されたとき、電話や立ち話しなどで多くの相談を受けました。地区担当理事の現在も組合員の方々からご相談を受ける機会が多く、女性の方が相談しやすい場面はあるのかなど。PTA会長のときを思い出しました。「女性だからこそその話しやすさ」

はあります。だからこそ女性管理職も難儀だろうけど必要だと思えます。職場の活性化にも繋がると思っています。

柿崎 理事を受けるときにはハードルの高さがあるとお話でしたが、管理職の女性の方々も同じような思いはあるのでしょうか。

福田 大森支店では連続して女性支店長が務めています。男性が窮屈というわけではないのですが、女性管理職がいると雰囲気も明るく、金融部門でも声をかけやすい。中村理事に多くの相談が寄せられた理由の一つなのではないかと思えます。

でもやはり女性の方が「おはようございます」という声もかけてくれると感じています。

女性の管理職というハードルは高く大変だろうけれども、やはりどんどん増やしてもらいたい。

そして、中村理事は一般枠での理事。理事会でも、通常2枠の女性理事に一般枠から一人女性がいることで力強く感じています。ぜひ管理職についてもどんどん増えてもらいたいと思います。

神谷 女性が上にいてくれると、下にいる女性の人たちが同じ立場で家

のことも仕事のことも同じ目線で見てもらっているという安心感があると思うんですよ。

そうすれば何か困った時に相談しやすく、普段の毎日の生活の中で、心配事や不安を吐き出しやすい場面もあるかと思えます。

佐藤 現状として管理職に女の人が増えてほしいと常々考えています。

ただ、先般、エンゲージメント調査を行った結果では、管理職に就きたくないという意見が多い傾向にありました。管理職になれば、必ずその上からも言われ下からも言われる。板挟みの状態、そこなのだろうなと思えます。女性のきめ細かい気配りなど、先程、女性が支店長であれば声をかけやすいというところにも共感します。



理事

■ 中村 正子 (山内)

- 平成23年4月～平成24年3月 JA秋田ふるさとフレッシュ部会 部会長
- 平成26年6月～現在 JA秋田ふるさと理事。現在4期目
- 令和2年6月～令和5年6月 代表理事専務
当時として全国的に数少ない女性常勤理事となり、県内JAにおいてもJA運営の女性参画を大きく前進させた。
- 令和6年4月～現在 JAふるさと福祉会 代表取締役社長

夫と二人でぶどう60a 水稲2haを経営

- 好きなこと
温泉／孫と遊ぶこと





理事

■ 福田 節子 (大森)

- ・平成22年4月～平成24年3月
JA秋田ふるさと助け合い組織連絡協議会副会長
- ・令和2年6月～JA秋田ふるさと理事。現在2期目。
- ・女性部や助け合い組織では得意な料理やものづくり、ダンスパフォーマンスを活かし各種事業や福祉施設慰問等で精力的に活動を行っている。

専業農家で夫とたばこ60a、ほうれんそう5棟 200㎡を経営。

- 好きなこと／得意な事
ドライブ／おかず作り

中村 今〇〇ハラスメントが先行するとともに、「守られること」が先行され、引き受けてくれる人が男性であれ女性であれ、管理職へ求められるハードルが高くなっていると感じます。多様な感性が受け入れられている現在「でもそれって職場においてはどうなの」ということを一つ一つ研修を踏まえ学習していかなければならないと思います。

神谷 どのJA・会社・職場でも、その中が和気あいあいとしてれば、業績は伸びる。中にいる人たちもすぐ働きやすい。

JA秋田ふるさとという大きなJAには、様々な人が集まり地元ばかりではなく県外とか他の地区からの職員もいます。「やっぱりここで仕事してよかったな」と仕事を続けてもらいたいと常に思っています。

女性総代比率、役員比率の向上に向けて

柿崎 JA全国大会決議で女性比率の目標、正組合員30%総代役員15%以上と示され、当JAの現状は総代が5.2%、役員で9.4%です。

今後関心を持ち役員なり総代になつてもらいたいと感じます。

役席に対するプレッシャーやハードルの話となりますが、様々な考えがなければなりません。お1人ずつお話を伺いたいと思います。

福田 女性部・地区組織含め新規加入者がいない状態で、女性部の存続に不安があります。

部長や役員を避けるために入部しない、部員を辞めるといふ事案が多くなっています。今いる部員を引き止めなければなりません。その方たち

にはまず総代になつてもらふこと、そしてJAの総代会をきちんと見てもらいたいという思いがあります。

JAでこんなことやってるんだっていうことを見て欲しい。

けれど集まりの場所に出て来てくれない。だからJAが伝えたいことが伝わっていないという循環に陥っているのだと思います。女性部・フレッシュ・助け合いにしても新規加入者がおらず誰もいなくなるという未来が本心に心配です。

柿崎 やはり協同組合の理念を理解するのに、最初に女性部や青年部という協力組織に入り、JAという組織を理解して貰うことが重要だと思います。最初のステップの機会すら減っているという現状なんですよね。

全県の部長を務められた神谷理事に現状をお聞きしたいと思います。

神谷 まず県の女性協の人数は、10年経ち約半数に減っています。

令和6年度の当JAの女性部の人数は1700人余りです。10年前は3000人を超えていました。県でも当JAの女性部員の人数は多く、「ふるさと」、「しんせい」「おぼこ」の女性部員はそれぞれ3000人台でした。

そして来期は役員改選になります。



部長の条件として65歳という年齢制限を設けており、全国の基準になっています。年齢制限の緩和案もありましたが、一度変更すると元に戻れなくなるという弊害もあり全国にない65歳の年齢条件を設定したことが私の最後の仕事でした。

全国的に人数は減り高齢化が進む状況は避けられない。

今この過渡期になってJAあってこそ、JA女性部というのが私の思いです。JAのおかげで様々な知識を得られ、いろんな繋がりができ全国の知り合いができました。やはり自分が女性部で得た知識や能力、人との繋がりを、周りの人に広めることも一つの使命だと思っています。

中村 青年部は農家をする仲間。女性部は活動を通して何歳になつても

「今日、用（教養）ある」と言って教養を身につけることが、女性部を通しては大切なんだと思います。

女性協70周年記念のとき「組織の役員に二の足を踏む女性がすごく多い」という農業新聞の記事を踏まえ、役を引き受けることで一回りも二回りも大きくなり話が来たらぜひ引き受けてほしいと新聞記事に同調するかたちで講演をさせて頂きました。

男性の意識改革はもちろん大切で、女性がその一步を踏み出す勇氣と女性の意識改革がすごく重要になるということを強調してまいりました。

一つ一つが良い経験になっていくことだと思ふ。役員を断らずに引き受けてステップアップに繋げてほしいと思つています。

佐藤 総代などの女性枠を設けられているのは、女性部組織があるJAの苦肉の策と解釈しています。そうしなければ、女性総代を増やすことは難しい。まして今や農家・組合員が減っている中で、女性の総代や役員を増やすという課題解決は難しい。そもそも、当JAでも役員を削減している現状。一般枠の総代は地域の選出。地域の中の農家となる。

そして、組合員の年齢層を考えれば、60以上65歳以上の人が圧倒的

に多く、次いで70歳以上、と分布し女性が参画することに対して懐疑的な世代もいます。今こそ地域の組合員が集まり、女性を総代にするとする。前提として総代になるためには正組合員でなければならぬという条件があります。そこが一つのハードルだと感じています。

女性の方々へのメッセージ

神谷 声をかけられたら断らないで自分のためだと思つて挑戦してほしい。

人生100年時代。私は生涯現役で自分が元気でいるうちは、どんなことでもまわりに伝えていきたいと思つています。人との付き合いも、自分が身に着けてきた能力も、全てです。広めると言う行動は、男の人ではなく、女の人が得意だと思つています。とにかく声をかけてくれたら断らないということをもットーに挑戦してほしい。

今までもそうですが、今後も誰でもできる料理や伝統食を広めていきたいと思つています。

周りからは「ここまで教えていいのか」と言う人もいますが、知識や能力を墓場までもっていても仕方ありません。とにかく同じようにできなくても、その人なりのやり

方・別のやり方が出てくるかもしれません。できる限り広めていきたいと思つています。

福田 私も食育についてですが、以前助け合い組織の活動を行う中で平鹿病院給食の人たちから、「伝統食を病院食で実施したい」との希望で年に数回「豆腐カステラ」や「エゴ」「赤飯」や「ニシンの煮付け」などいろいろ提供してきました。それこそ有名なものが「凍み大根」。平鹿病院の屋上で作り、それを給食に提供しました。この活動が息づいており、「豆腐カステラ」については大森町の太田美智子さんが秋田県の郷土食として紹介されております。岩手の理学療法士の教授の方が習いたいと豆腐カステラと「こぎき練り」の伝承を行いました。

伝統食を調理し承継し、これからを担う学生や子どもたちに作って食べさせることが大事だと気づき始めました。

子供たちに食の好みを聞く機会があり、皆さん「刺身」と応えてくれるのですが「サーモンが好き。他を食べたことがない」と続きました。刺身だけではないですが子どもたちの偏食傾向に気づき驚きました。

現在、核家族化が進み、特にそういう子供たちが沢山おり、JAを通

じていろんな食育を行つて私たちも習い、広めなければいけないと思うようになりました。

食べ物に関しても神谷理事の様な方の協力を得てずつと残していきたいものだなと思つています。

このことがJAと女性部が活発に活動していることを示すことに繋がると思っています。ぜひ、この活動は続けていきたいと思つています。

柿崎 子どもたちに沢山の地域の特産品や、その美味しさも知ってもらいたい、味わってもらい、幅を広げてもらいたいというふうにも思っています。

中村理事お願いします。

中村 食農教育に関しては、皆さん





と同じように地産地消・国産国産、ふるさと管内で美味しいものが沢山あるということ伝えていく人たちがいなければ次世代には繋がっていかないと思います。

神谷理事の様に伝統料理を教え様々な種類の食べ物があることを青年部・女性部というツールを通じて、次の世代に繋げていただきたいと感じます。そして地域農業の担い手育成という面で農業は天候に左右され、物価高騰に左右され、頑張った割にはそんなに収入が上がらないかもしれません。本当に厳しい面もあります。

けれど、やはり若い人たちが喜ぶ儲かる農業をしていかなければ駄目だと思えます。

自分たちが一緒にやってる仲間作

り、そのサポートもJAを通して、いろんなやり方を勉強して欲しいと思います。やはり担い手を育成するためにJAを大いに活用してほしいと感じます。

そして、女性自身の踏み出す一歩。何歳になってもやっぱり女性部の集いの場や活動に参加し面白かったと集まって笑える場で仲間作りをしてほしい。女性部ならではの事業をいっぱい行っていますので、まずは玄関から踏み出す一歩。その踏み出す一歩のために「女性自らの意識改革」が一番重要になってくると思います。

女性が共感したり気づいたりすることは、些細なつまらないことかもしれないませんが、女性にとっては大切なことでもあります。共感し合いながら自らの強みにも気づき存分に生かして、農業はもろろんのこと地域活動・女性部活動にぜひ繋げていただきたいと思えます。

柿崎 若い担い手の育成や、食の教育についてもそうですが、個ではできなくて、組織を利用することでできることが沢山あると思います。そういう視点からJAを利用していただき、協同組合の良い面を感じて利用していただきたいと思えます。

そして最後に、副組合長から総括

としてご意見をお願いいたします。

佐藤 昨今、この食べ物が豊富な時代に子供食堂があります。これは都会だけの話ではなく近隣地域でもあります。

生産物や食べ物豊富な田舎でも、ご飯を満足に食べれない子供がいる現状があります。やっぱりこの現状は間違っていると強く感じています。幸福だと思えることができないう子供と親がいる。食育とは、みんなが幸福になるのが大前提なのだと思います。

この問題を私たちJAが何とかできないのだろうかと思えます。そして、女性が様々な役職に就く事にも大賛成です。

男女の区別なく何かを成す場合には責任が伴います。その責任の解釈の仕方が大事。その役を男がやって、当たり前だった時代もあった。もちろん女性にも責任はある。ただ世の中に出た場合の責任は、全く違ってくる。その考えを変えていかなければ、様々な場面で影響が出てくると感じます。もちろんそれは家族の協力も必要だと思えます。

男も女も同じ、周りの理解・一番身近な人の理解が必要だと思えます。

だから、これからも皆さんには、

女性のリーダーとして頑張っていただきたいと感じています。

柿崎 JAグループは食を支えるだけではなく、様々な場面で活躍する人をも一緒に支えて欲しいと感じます。大変濃密なお話をお聞きできました。女性だけでなく男性の方も組合員そして地域の多くの方にも今回の内容を知っていただきたいと感じました。

本日はどうもありがとうございました。



販売額計 50億903万円

(前年同期比 98%)

園芸品目 43億3,124万円(前年同期比 95%)

果樹品目 6億7,778万円(前年同期比 123%)

ふるさと産品

令和6年を振り返る

園芸



令和6年度は、社会経済活動の正常化に伴い、インバウンド等による国内需要が高まりつつあります。その一方で、エネルギー単価の高止まりによる生産コスト、令和6年4月からの物流規制による物流コスト等、農業経営における様々なコストが上昇し、農業を取り巻く環境の厳しさが続いております。また気候変動による生産の不安定化に悩まされ7月24～25日の大雨被害や連日の猛暑となったことで、作物の生育や品質に多大な影響を与えました。このよ

うな状況の中、今年度は総じて出荷量減となったものの、単価高で推移したことから、令和7年3月末で園芸品目販売額は55億5,500万円となる見込みです。

◆きゅうり

定植はハウス栽培で4月上旬から、露地栽培で5月中旬から始まり6月上旬まで行われました。定植後6月23日(平年より5日遅い)に梅雨入りし、日照時間が減少したため初期生育は軟弱な生育となり、7月下旬の大雨の影響により根痛みが発生し生育停滞が起こり出荷量は落ち込みました。8月上旬頃には出荷ピークを迎えましたが、大雨や強風によるスレ果の増加等から秀品率が低下し、例年より少ない出荷量となりました。お盆以降も天候不順の影響から曲がり果等の果形の乱れやアブラムシ媒介によるウィルス病等が発生し、平年よりも早く出荷を切り上げた圃場が多くなり収穫量の減少となりました。一方、販

売面では出荷期間を通じて高値基調での販売となり販売単価は379円/kg、販売額は前年対比110%の2億8,700万円となりました。

◆トマト

4月下旬から定植が開始され、定植後の5月上旬から中旬まで比較的好天に恵まれ、良好な活着となりましたが、下旬にかけて曇雨天が続く生育は鈍る状況となりました。6月に入り天候が回復し、6月17日から初出荷となり、梅雨入り後高温傾向であったため着色が進み、7月下旬に出荷盛期となりました。盛期中の大雨による浸水被害で、一部ハウスでは酸欠による根痛みが発生いたしました。以降、8月は猛暑による小玉傾向と日焼果や裂果の増加、9月から10月に入ってからも高温傾向が続く、また早い時期から発生したオオタバコガ等の害虫被害もあり、出荷量は大きく伸びず生育も停滞気味となりました。出荷量は前年対比で95%、販売

面では品質の安定と9月中旬から10月にかけて高値基調の販売が続く、販売単価404円/kgで前年対比109%、販売額は1億700万円となりました。

◆西瓜

定植は比較的好天に恵まれたことから圃場準備が順調に進み、トンネル栽培では4月中旬から普通栽培は5月上旬と定植作業は例年並みに作業が進みました。以後、初期生育は5月の気温が高く、日照も多く順調な生育となり、交配期である6月中の気温も高く推移したことから着果・果形ともに良好で、初期の果実肥大も順調に推移しました。肥大期後半である7月24日から25日に大雨に見舞われ、停滞水や冠水した圃場が発生し、大きな被害を受けました。被害は停滞水等の酸欠による根腐れの発生で葉が枯れ上がり、また玉が冠水した圃場では果実腐敗が発生し甚大な被害となり、出荷量は前年対比72%の2,973tとなりました。販売面では終始





高単価で推移し、販売単価で前年対比113%の370円/kg、販売額は11億200万円となりました。

◆枝豆

播種は早生種の4月下旬から始まり、各作型とも発芽は概ね良好となりました。6月の乾燥傾向により早生種は草丈が短い生育で推移し、主力品種である「ふるさと娘」は発芽から初期生育は順調に推移したものの、7月下旬に大雨により冠水被害が発生し、停滞水の影響により湿害が発生しました。開花期以降は高温が続いたことから、莢肥大や登熟が順調に進み、前進出荷となりました。9月以降の中晩生種は降雨と高温で草丈が長めとなり倒伏傾向となり、着莢不足等で出荷量は伸びませんでしたが、生育期間全般に高温・大雨の影響で前年より出荷量は少なかったものの、販売面で予約相対取引を中心に堅調な販売となり、販売単価は864円/kgの高単価で推移

し、販売額は前年対比111%の1億7,100万円となりました。

◆アスパラガス

3月下旬以降の気温が平年より上回ったことから、萌芽は平年より早まりました。出荷開始はハウス栽培(半促成)で4月3日から、露地栽培で4月18日から開始され、出荷ピークは1週間程度前進し、遅霜被害はななく春芽は順調な出荷となりました。立茎作業はハウス栽培で5月上旬、露地栽培では5月下旬から開始され、夏芽の出荷も早まりました。7月上旬、下旬の大雨による冠水等の被害は少なかったものの、露地栽培では泥はねが影響したと思われる「とろけ症状」の発生があり、品質低下がみられました。その後安定した出荷となりましたが、高温傾向が9月まで続き、天候不順もあり徐々に茎枯病等の病気が増え、樹勢の低下した圃場が多くなり、前年並みの10月中旬で出荷終了となりました。出

荷量は前年対比で104%、販売面では全国的な出荷量の減少と国産需要の高まりで高値基調の販売となり販売単価は前年対比101%、販売額は5,300万円となりました。

◆花卉

春先の良好な天候により露地菊の定植は順調に行われ、5月から6月上旬の気温が平年並みであったことから草丈も例年並みとなりました。7月に入ると曇雨天の日が多くなり7月24日〜25日の大雨で圃場の停滞水や冠水が発生し、痛みや高温等で葉の黄化が見えましたが、盆需要に合わせた出荷については、安定した出荷販売となりました。一方彼岸出荷用の露地菊については、生育期間中の大雨の影響により減収や出荷が遅れる結果となりました。洋花についても大雨や猛暑の影響で、減収や開花期がやや早まり草丈は短くボリューム不足傾向となりました。販売面では異常気象等による全国的な入荷等の不安定

な中、多機能型低温倉庫の予冷効果による品質面や産地情報の発信で安定した価格を確保し、販売額5億4,300万円となる予定です。

◆菌茸

令和6年度の菌床しいたけの栽培菌床数は約340万菌床となり昨年度より約20万菌床減少しましたが、生産者の栽培技術により高品質な菌床しいたけが出荷され11月末販売額は昨年同月同等の1,599万円円となりました。9月までの気温が高かったことにより秋冬菌の盛期が1週間ほど遅れ10月中旬頃となりました。菌茸類が年末年始需要に向け本格的な出荷を迎えます。販売単価は予約相対取引を中心に高めの販売となっております。栽培に使用する燃料費、資材費などの高騰が懸念されますが、市場動向を注視しながら有利販売を行います。27億4,400万円の販売実績となる予定です。



果樹

◆リンゴ

令和5年のような高温障害による廃れは少なく、7月下旬からの降雨の影響で「炭そ病」や「褐斑病」といった病害が多くなりました。一方、土壌水分が豊富になった影響か全般的に大玉に仕上がりました。

J A集荷量は、「つがる」で前年比206%、「やたか」で同121%、「シナノスイート」で同141%と、中生種までは前年を大きく上回りました。主力品種「ふじ」については、糖度が例年になく高く大玉傾向ですが、病害発生と昨年の気象が花芽形成に影響したためか青実果が多く、集荷量は前年比109%に留まっています。

当J Aの集荷量は各品種とも前年以上となっていますが、他産地はそれほど多くなく、早生品種から通じて単価高となっております。

「銀世界りんご」と称した販

売も3年目であり、市場でのトップセールスや、横手市主催による県外での雪まつりへ参加して直売を実施する等、PR活動を実施しております。

◆ブドウ

7月下旬から8月盆頃まで降り続いた長雨の影響で、晚腐病と裂果が激発し正品率が著しく低下、売り物にならず廃棄される果実が多数発生しました。令和6年の気象はブドウ栽培にとつて極めて厳しい環境で、特に「キャンベル」「ナイヤガラ」等の中粒種ではこれまで経験したことのない減収を招きました。また、収穫期に入ってから高温が続いたため、「スチューベン」や「巨峰」等の黒色系品種は着色不良となり秀品率を大きく低下させました。

販売実績の最終見込みは、集荷数量197t(前年比88%)、販売金額1億1,300万円(同98%)で、主力品種の集荷量が軒並み前年を割り込む中、唯一「シャインマスカット」は前年

比175%と大幅に伸ばしており、次年度以降も集荷量の増量が期待されます。

◆モモ

令和6年度は平年以上の着果量を確保できたことに加え、降水量が十分だったため各品種とも玉伸びが良好で、「あかつき」等の早生種の集荷量は前年を4割以上上回り、主力の「川中島白桃」についても前年比127%となるなど、全体としては前年比140%の集荷実績となりました。ただ、長雨の影響で病果や軟質による傷みなどのクレームが多発し、品質面では問題の多い年といえます。

一方、販売状況については、関東市場への出荷を大幅に増やすなどの対応に努めた結果、平年以上の価格を維持することができ、高単価だった前年並みの販売キロ単価となりました。

その結果、最終的な販売金額は前年度の8,800万円を大きく超える1億2,000万円を記録し、過去最高の販売実績

を達成することができました。

◆サクランボ

春の生育が早まったことと生育期間中の気温が高めに推移したことに伴い、収穫も過去にない記録的な早さとなりました。開花期が天候に恵まれたため作況は平年並みを見込んでいましたが、昨年の猛暑が影響しましたが、昨年の猛暑が影響し充実した花芽が確保できなかったこと、収穫期に入ってから的高温障害で果実品質が下がり廃棄される果実も多く発生したこと等から、集荷量は激減しました。販売実績は集荷数量3.5t(前年比36%)、販売金額1,030万円(同52%)で本意な結果となりました。



令和6年度 園芸・果樹生産販売実績

(令和6年11月末現在)

総合	令和6年度実績		令和6年度年間計画				令和5年度同月実績				
	数量(t、本)	販売額(円)	数量(t、本)	対比	販売額(円)	対比	数量(t、本)	対比	販売額(円)	対比	
野菜	きゅうり	757.7	287,229,866	847.0	89%	269,000,000	107%	817.1	93%	260,445,012	110%
	トマト	266.6	107,871,302	322.3	83%	113,377,000	95%	280.0	95%	103,719,098	104%
	西瓜	2973.8	1,102,259,984	4,800.0	62%	1,050,000,000	105%	4133.5	72%	1,349,622,410	82%
	枝豆	197.9	171,121,632	265.0	75%	185,000,000	92%	216.7	91%	154,336,875	111%
	アスパラガス	38.8	53,074,385	42.0	92%	56,600,000	94%	35.3	110%	45,825,108	116%
	食用菊	3.5	6,230,427	4.7	74%	7,900,000	79%	4.1	86%	7,710,347	81%
	山菜	0.5	2,685,140	1.5	34%	6,000,000	45%	0.4	118%	2,319,524	116%
	メロン	9.7	4,709,349	14.6	66%	6,667,000	71%	12.8	76%	5,893,529	80%
	シリアンルージュ	13.9	7,182,146	10.3	135%	4,383,000	164%	10.8	129%	4,993,135	144%
	ピーマン	19.2	9,810,806	30.7	63%	14,329,000	68%	21.3	90%	12,029,147	82%
	にら	45.6	21,462,029	45.3	101%	25,168,000	85%	43.0	106%	21,874,983	98%
	せり	3.4	8,542,296	3.8	89%	6,950,000	123%	3.3	103%	7,553,527	113%
	ハウレン草	196.8	176,613,952	227.9	86%	171,958,000	103%	191.5	103%	149,793,933	118%
	小松菜	26.1	10,454,701	45.0	58%	17,150,000	61%	44.4	59%	20,075,104	52%
	みつば			0.2		1,155,000		0.0		0	
	ミニカリフラワー	2.0	516,174	20.3	10%	4,615,000	11%	7.4	27%	2,127,475	24%
	塩蔵野菜	2.9	630,021	23.8	12%	5,342,000	12%	20.3	14%	4,315,094	15%
	ネギ	206.4	78,834,503	273.8	75%	92,000,000	86%	184.2	112%	84,131,369	94%
	里いも	33.1	21,636,540	30.5	109%	19,618,000	110%	23.1	143%	19,319,605	112%
	アスパラ菜	0.5	295,689	13.0	4%	6,500,000	5%	0.5	100%	329,182	90%
そら豆	9.3	5,754,156	11.0	85%	6,400,000	90%	10.7	87%	6,399,774	90%	
朝採り野菜	41.1	14,456,108	61.3	67%	16,689,000	87%	43.6	94%	15,529,283	93%	
安心畑他		65,431,977	0.0		97,093,000	67%	0.0		65,372,761	100%	
その他野菜	54.2	23,610,533	205.3	26%	29,411,000	80%	219.5	25%	28,045,915	84%	
野菜計	4902.7	2,180,413,716	7,299.0	67%	2,213,305,000	99%	6,323.4	78%	2,371,762,190	92%	
花卉	菊	5,336,994	352,706,989	6,180,000	86%	407,571,000	87%	5,342,881	99%	356,277,312	99%
	ゆり	192,230	15,254,989	138,000	139%	13,971,000	109%	231,400	78%	22,365,974	68%
	シンビジウム	3,378	2,015,819	32,200	10%	24,470,000	8%	1,687	200%	1,088,435	185%
	トルコギキョウ	401,402	76,540,797	436,900	92%	75,867,000	101%	439,280	91%	75,973,092	101%
	その他花卉	711,170	64,877,611	640,600	111%	63,121,000	103%	6,678,329	85%	63,943,340	101%
	花卉計	6,645,174	511,396,205	7,427,700	89%	585,000,000	87%	12,693,577	95%	519,648,153	98%
菌茸	菌床しいたけ	1,333.6	1,599,073,176.0	2191.7	61%	2,725,826,000	59%	1,344.8	99%	1,620,006,006	99%
	原木しいたけ	5.0	4,850,366.0	11.0	45%	10,235,000	47%	5.2	95%	4,836,703	100%
	その他菌茸	67.9	35,510,682	101.2	67%	52,035,000.0	68%	62.2	109%	31,956,679	111%
	菌茸計	1,406.5	1,639,434,224	2303.9	61%	2,788,096,000	59%	1,412.2	100%	1,656,799,388	99%
野菜・花卉・菌茸計	6,651,483.2	4,331,244,145			5,586,401,000	78%			4,548,209,731	95%	
果樹	りんご	799.39	287,557,677	3,644.82	22%	859,326,012	33%	594.57	134%	217,326,225	132%
	ぶどう	111.14	88,424,701	236.67	47%	117,937,841	75%	137.36	81%	95,505,880	93%
	西洋なし	480.74	165,828,015	449.24	107%	141,949,500	117%	375.06	128%	126,945,205	131%
	さくらんぼ	3.55	10,317,255	10.28	35%	23,224,128	44%	9.79	36%	19,682,723	52%
	もも	206.48	124,598,266	162.52	127%	91,949,901	136%	147.75	140%	88,976,678	140%
	その他果実	1.45	1,062,332	0.45	322%	414,985	256%	0.45	322%	415,166	256%
果樹計	1,602.75	677,788,246	4,503.98	36%	1,234,802,367	55%	1,264.98	127%	548,851,877	123%	
総合計		5,009,032,391			6,821,203,367	73%			5,097,061,608	98%	

※表記上データは四捨五入しております。



【稲作】を振り返る

登熟良好も千粒重低下で収量に個人差 「ふるさとecorais」 認定率 96.1%に

育苗期
種子の休眠により発芽
不揃いに影響

播種作業の盛期（進捗率50%）は4月24日（平年より4日早い）となりました。

令和5年産の高温登熟の影響を受けた種子は休眠が深く発芽が不揃いとなった苗が多く見られました。育苗ハウス内の高温障害（苗ヤケ）やもみ枯細菌病も発生し、緊急苗の対応も平年より多い状況となりました。

育苗期間中は概ね高温で経過したことから苗の生育は平年並みより早く、徒長傾向となりました。

本田
田植えは平年より早く
も初期生育に遅れ

田植え作業は、盛期（進捗率50%）が5月23日（平年より1日早い）となりました。苗の生育が早くなったことで、徒長苗や老化学苗での田植えが見られたことと、活着時期に当たる5月下旬～6月上旬に最高気温の低い期間があり、水温や地温の上昇が緩慢となったことで初期生育が遅れました（6月10日調査 あきたこまち m²当たり茎数平年比76%）。

**初期
中期**
6月中旬の気温上昇と
日較差の拡大により
茎数増加

6月中旬の気温が平年よりかな

り高くなったことと日照時間が多くなったことで日較差が拡大し、茎数は平年の113%まで増加しました。有効茎決定期（6月25日調査）では草丈が長め（あきたこまち平年比109%）、葉数は同差+0.5葉、葉色は同比100%と全て平年以上の生育になりました。梅雨入りと共に6月下旬～7月上旬は雨が多く日照時間が少ない日が多かったことに加え、7月上旬の夜温（最低気温）が高く経過したことが草丈を伸長させる大きな要因となりました。

**幼形期
減分期**
気温が高く経過し
幼穂形成期も早まる

7月中旬も平均気温が高く経過したため生育が進み、7月15日調査時点で既に幼穂形成期を過ぎていく圃場がほとんどでした。減数分裂期も早まりこの期間（7月下旬）大雨や日照不足の影響に加えて夜温（最低気温）が高くなったことで、倒伏に影響を及ぼす第III節間及び第IV節間が急激に伸長しました。

減数分裂期（7月25日調査）の草丈は平年比110%、m²当たりの茎数は同比93%、葉数は同差

+0.6葉、葉色は平年並み（同100%）の生育となりました。前述の気象条件により草丈が平年よりかなり長めで、有効茎歩合低下の傾向が見られました。

**出穂期
登熟期**
出穂後も高温と多照で
登熟歩合は向上

管内のあきたこまち出穂盛期（全体で50%到達）は8月1日（平年より3日早い）となりました。

出穂期～登熟期間は令和6年も平均気温が高く白未熟粒が心配されましたが、高温と多照で登熟歩合は向上しました。登熟期（8月20日調査）はあきたこまちで穂数が平年比98%とやや少なめ、茎数不足を補充しようと1穂穂数が多くなった（同比102%）ことからm²当たりの籾数は同比100%となり作柄は期待されましたが、お盆前から倒伏が始まり収量や品質への影響が懸念されました。

収穫期
収穫期まで平均気温
高く刈り取り適期
大幅に早まる

9月に入ってからも平均気温を上回る日が続き、刈り取り適期は大幅に早まりました。あきたこまちの出穂盛期8月1日以降の積算気温95.0℃～1,05.0℃到達の刈り取り適期は9月8日～12日と平年より6日早くなりました。

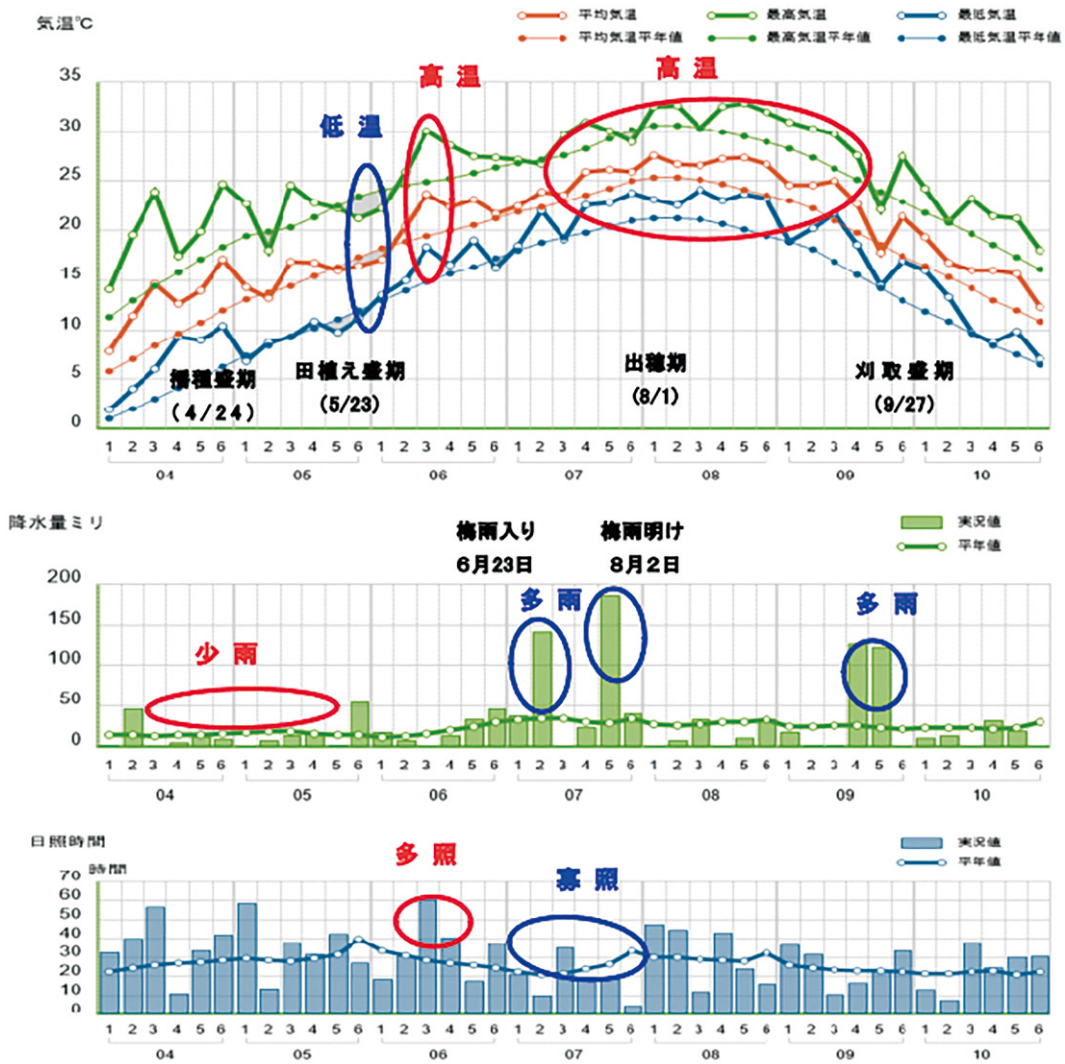
稈長が長くなったことにより、9月中旬のまとまった雨で倒伏圃場がかなり拡大し、収穫作業が近年になく困難な状況下となりました。

病害虫
あきたこまちは割れ籾
多く斑点米増加

秋田県病害虫防除所の情報では、葉いもちの全般発生開始期は平年よりやや遅く感染好適日は6月25日となっています。山間部で一部葉いもちの病斑が確認されましたが、7月下旬の大雨後に防除が徹底され発生量がやや少なかったことと出穂期以降8月の高温・多照・少雨により穂への感染が抑制されたことが穂いもちの発生量低下に繋がったと考えられます。紋枯病は7月下旬の大雨や日照不足により無防除圃場で発生が助長され、発生量は増加傾向にあります。

斑点米カメムシ類については、越冬世代の発生が早かったことや高温下で増殖し、特に畦畔での発生密度は高い状況でした。さらに、大雨や日照不足、高温下の出穂により主力のあきたこまちは割れ籾率が多くなり、斑点米カメムシ類の加害が助長される条件となりました。令和7年産米の防除対策として発生密度が高い畦畔の防除（出穂前）と出穂期10日後（本田への進

令和6年産米の気象経過 4月～10月（アメダス横手・秋田県農業気象システムより）



入ピーク）と出穂期24日後（割れ
 籾発生時期）の2回本田防除徹底
 が必要で。特に、1回目の防除
 時期が早い傾向があり、出穂期に
 合わせた防除を指導して参ります。
 ふるさと全体の令和6年産1等
 米比率は87・8%となりました。
 2等米以下の格付理由の77・1%
 がカメムシ被害による着色粒、次
 いで15・0%が未熟粒・充実度、
 5・4%が胴割粒・砕粒となり、
 倒伏や刈り遅れの影響が起因して
 います。令和6年も登熟期の平均
 気温は高い状況でしたが、令和5
 年と比較して35℃を超えるような
 猛暑日は無かったため、白未熟粒
 （乳白・背白・腹白・心白）は少
 なく、透明感のある米が多く生産
 されています。

まとめ

温暖化により水稻の栽培期間、
 特に登熟期の高温はもはや避けら
 れない状況になっており、先に述
 べたとおり活発化するカメムシ対
 策はもろん、品質・収量を担保
 する「ケイ酸肥料」施用による土
 づくりが重要となります。

東北農政局発表による秋田県の
 令和6年産米の作況指数は、全県
 が「102」・県南が「103」
 の「やや良」と発表されましたが、
 生産者の実収は個人差があるもの
 の作況ほどの豊作感は無いうよう
 に感じられます。先に述べたとおり、

大雨による日照不足や高温下の影
 響により有効茎歩合が低下した圃
 場、千粒重が低下した圃場、出穂
 期の高温による受精障害により不
 稔（空籾）が生じた圃場など調査
 上は平年並み以上あった籾数が結
 果的に減少した要因が様々存在し
 ています。

集荷数量については、民間流通
 米で約67万俵、契約数量対比90・
 3%（令和6年11月29日検査日現
 在）となっております。食味につ
 いても登熟歩合が向上したこと、
 玄米のタンパク質含有率が全体的
 に低く良好です。（倉庫における
 玄米食味値…あきたこまち 平均
 74・5、サキホコレ 平均79・8）
 「ふるさとe.c.o.らいす」の
 取組率は10年以上経過し、ほぼ
 100%となっております。生産者
 の皆様のご理解をいただき継続的
 に積み上げてきた結果、販売先
 にも高い評価をいただいております。
 斑点米カメムシ被害により品質低
 下はありましたが、96・1%と高
 い認定率となっております。

これからの米づくりに当たって
 は異常気象に対応した栽培技術や
 品種の選定により、求められる品
 質と生産量が必要となります。信
 頼される産地を生産者の皆様と一
 緒に作り上げて参りますので、引
 き続き令和7年産米の求められる
 米の生産と推進にご理解とご協力
 を賜りますようお願いいたします。



JA秋田ふるさと



「第26回JA秋田ふるさと女性大会・家の光大会」が12月1日、秋田ふるさと村ドーム劇場で開かれ、各支部の女性部員や地域住民、JA役職員など約430人が参加しました。部員同士の相互の交流を深めるため、地域を支える女性を中心となり会場に集まりました。

大会冒頭の挨拶ではJA女性部の柿崎由美子部長が「女性部には、支部毎に伝統ある行事があり、地域の農業をみんな支えてきた。活発な女性部活動を地域の皆さんに発信し地域農業の発展に寄与し、食農・食育を次の世代にしっかりと継承していく事に取り組んで行こう」と挨拶しました。

続いて佐藤誠一組合長が「今回の大会では組織間交流としてJAこまち女性部の皆様にもご参加頂いている。組織間の交流そして人の交流によって相互理解を深めその積み重ねが様々なJA事業や連携、そして未来志向を生み発展し、私たちのメリットにつながる。これまで以上に農協の教育文化活動への女性の取り組みを盛り上げてほしい」と挨拶を行いました。

女性部平鹿支部の新山容子支部長がJA女性組織3カ年計画「JA女性 女性の想いを一つに叶えよう(クローバー)」の実践最終年度として食・農・地域の活性化と仲間づくりを目的とした令和6年度の組織活動を振り返り、7月下旬には青年部の協力のもと、管内の小学生と保護者を対象とした「ちゃぐりんフェスタ2024」や、恒例となったサイクリングイベント開催にあたり「ふるさとエイド増田」のブースで地元の食材を使った

炊き出しなどの活動や「JAこまち女性部まつりならびに家の光大会」への参加を報告しました。

そして、雄物川支部の伊藤美緒さんが「つなぐその先へ」と題し、家の光記事活用体験発表を行いました。伊藤さんは、家の光の記事がオリジナル商品の開発のヒントになったことや、新規就農した女性農家同士で課題解決を行うグループ「横手農業女子勉強会」を立ち上げたことなどを農業に対する思いと合わせて発表しました。

(一社)家の光協会 普及文化本部 東日本普及文化局 文化委員 村上吉孝様より「家の光」の紹介ののち、女性部役員の先導により、会場の皆様とウォームアップ体操「上を向いて歩こう」を行い「ふるっぴ」も一緒に体操を行いました。

その後、秋田県住みます芸人のきり亭たん方さんとちえすさんが、県民性をネタに取り入れたお笑いライブで会場が笑い声に包まれました。

その後は、お楽しみ抽選会が行われ、司会の柴田優子さんと芸人らの軽妙なトークで会場を楽しませました。

こうして、同大会は大盛況のうちに閉幕しました。



▲女性部の活動をパネルで紹介



▲女性部活動作品の展示



▲開会のあいさつを行う
柿崎部長



▲佐藤組合長のあいさつ



▲家の光記事活用体験発表を行う伊藤さん



▲ちえすのお二人



▲ウォームアップ体操「上を向いて歩こう」を行う
女性部役員の皆様



▲きり亭たん方さん



▲会場全体での記念撮影



ふるさとの民話

かさじぞう2 (平鹿町吉田編)

●再話／中川文字 ●画／佐々木愉美子

昔むがし、貧乏だ爺様と婆様がえだけど。婆様が「正月来るから餅っこ搗がねやばでげねや。餅米、買ってきてけれ」って言ったけど。「餅米、買う錢こなねやべった」って爺様が言ったば、「昔家だおの、仏壇の陰なの床の間の隅っこなの、探ねだらあるがもしれねや」って婆様が言うなで、「煤掃ぎもしてねやごどだし、掃除しながら探ねでみるべ」って二人して家の中かまして歩りたば、あつちがら五十文、こつちがら五十文見つかつたけど。それで次の日、爺様が餅米買いに出がげだだけど。

途中まで行つたば、沼さ鴨が沢山下りできて遊んでらだけど。「鴨の具焼ぎつこは、美味やべな」って思つた爺様は鴨めがげで、錢こ投げだど。三十文投げだども、一つも当たらねやがつたど。「無駄投げしてしまつた。惜ましごどしたな」ど思つたど。まだ歩りてだば雨風吹いできて、その内、雪降って荒れできたけど。「あら」ど思つたば目の前さ六地藏様が並んで、雨風に打たれで、頭からダラダラどしずぐ垂らしてだだけど。「地藏様、斯様に寒び時、何えも被らねやで可哀想ねや」ど思つて、少し先の店で笠買ってきて地藏さま被せてだだけど。笠一枚十文だなで六十文かがつてしまつて、十文しか残らねやがつたど。「残り

で餅米、買って帰るべ」ど思つたども腹空ぎで、我慢ならねやぐなつたけど。酒っこ飲んでる内に正気でねやぐなつて、何え買うなだかも忘れでしまつたけど。暗くりやぐなつてきたなで、なんとが家さ戻つたど。婆様、小豆煮で待つてらども爺様が酔い潰れでしまつたなで、しかだねやがら餅米は諦めで寝だだけど。夜中になつたば、家の陰の方でグチャグチャど喋る音するけど。婆様は、「屹度、爺様が酔つ払つて他人さ迷惑かげで、仕返しに来らえだなだべ」って思つたけど。爺様は、「餅米も買わねやで酔つ

払つてきて、婆様はこねでえだなだべ」ど思つて、おどなしくしてらど。夜明けで明がりぐなつてきたば音っこさねやぐなつたなで、二人して覗いでみだど。したば、爺様から笠もらった地藏様が錢だの米だの餅だの入つた袋を担いで、礼返しに来たなだつたど。爺様ど婆様は「ありがでや、ありがでや」って手合わせで、地藏さまどご拝んだだけど。とっぴんばらりのふう



▲QRコードを読み取ると音声で「ふるさと民話」をお楽しみいただけます。

新春クロスワードパズル



- タテの鍵
- 1、年賀状をコレからSNSなどに切り替える人も増えました
 - 4、サトイモの親芋のまわりにできます
 - 7、コートなどに用いる毛織物
 - 9、ここで話していてもーがあかないから見に行こう
 - 10、しんしんと降り積もるもの
 - 11、箱根駅伝は10ー、計217.1kmで競います
 - 13、さんずい、うかんむりなど
 - 15、ほうきに乗って飛ぶるとか
 - 16、10を3回かけ合わせると縁起をかついで食べる受験生もいます
 - 18、おせち料理に入れる紅白の食材といえは
 - 20、チャールズ・チャップリンはーの王様です
 - 21、可燃ではありません

ヨコの鍵

- 1、宝船の絵を枕の下に入れておくとよいものが見られるとか
- 2、窓を開けて取り込みます
- 3、カード式のホテルもあります
- 5、中東の国のひとつ。首都はテヘラン
- 6、きねと白でつくもの
- 8、「本の虫」と呼ばれることも
- 12、七草を入れて炊くことも
- 13、初詣で一年のーを祈った
- 14、「見通しがきく」ことを願っておせち料理に入れます
- 15、マスカラを付けるところ
- 16、脊椎動物にはあります
- 17、「Rがつかない月には食べるな」といわれる貝
- 19、耳が冷えないようにイヤーーをつけた

1	7	10			17	20
2				15		
3			13			
	8	11			18	
4		12			19	21
5	9			16		
6			14			

※12月号の当選者については2月号でお知らせいたします

お年玉プレゼント

J A秋田ふるさと直売の会
「ふるさと安心畑」
おすすめセット **15**名様



※写真はイメージです

① クロスワードパズルの答え

② 住所 〒

③ 氏名

④ 年齢 歳

⑤ 電話番号

⑥ 該当する組合員区分 ※○をつけてください

⑦ 今月の好きな記事とその理由 または当誌やJAへのご意見・ご感想

正組合員・正組合員家族・准組合員・員外

(J A 秋 田 ふ る さ と 営 農 経 済 部 食 農 販 促 課 行)

【応募方法】
ハガキに左記①～⑦までの項目をご記入の上、下記までご応募ください。左の点線を切り取って管内最寄りの支店まで持参いただくかハガキに貼り付けてもご応募できます。なお、お寄せいただいたご意見は「おたより」のコーナーに掲載させていただく場合がございます。

【応募先】
〒013-0205 横手市雄物川町今宿字前田面20
J A 秋 田 ふ る さ と 広 報 担 当
または J A 秋 田 ふ る さ と ホ ー ム ペ ー ジ
<http://www.akita-furusato.or.jp/>
からでもOK。

(「みなさんの声と作品をお寄せください」バナーをクリック!)

【締 切】
令和7年1月22日(水)当日消印有効

営農経済部からのお知らせ

■園芸作物生産推進セミナー開催のお知らせ

標記セミナーを下記により開催いたします。新規に取り組みを検討されている皆様、家庭菜園での栽培方法に興味のある皆様、是非ご参加下さい。

日時：令和7年1月30日(木)
10:30~17:00

場所：JA秋田ふるさと平鹿支店2階大会議室
講師：平鹿地域振興局農林部農業振興普及課
内容：①圃場選定と排水対策について

②(各品目)
栽培管理並びに水稲との複合経営について

品目：小菊・枝豆・きゅうり・ねぎ・大玉西瓜

申込：令和7年1月23日(木)まで

申込先：最寄りの営農センターへお申し込みください

お問い合わせ先 園芸課 0182-23-6578

■適地適作・中山間地への園芸品目推進説明会開催のお知らせ

標記説明会を下記により開催いたします。中山間(金沢・横手(山内)・大森・増田)地区を対象にそれぞれの気象状況に適した作物の説明会を行います。是非ご参加下さい。

開催日	とき	対象地区	会場
令和7年 2月6日	9:30~11:30	山内地区	山内公民館 (山内地域局2F)
	13:30~15:30	増田地区	増田支店 会議室
2月7日	9:30~11:30	大森地区	大森支店 会議室
	13:30~15:30	金沢地区	金沢支店 会議室

説明者：園芸課 園芸専任担当

品目：きゅうり・アスパラ・ブロッコリー
トルコギキョウ(洋花)

内容：品目説明・栽培のポイント、経営収支、必要資材

申込：令和7年1月31日(金)まで

申込先：最寄りの営農センターへお申し込みください

お問い合わせ先 園芸課 0182-23-6578



スマホお申し込み
フォーム

定内場日
時 令和7年2月1日(土)
10:00~12:00(受付9:30~)
場所 横手支店 2階調理室
内容 『本格!中華まん!!』
10人(定員になり次第締切)
園食農販促課こんぶりちえ倶楽部
事務局 ☎0182-23-6540
✉ei-syokuhan@akita-furusato.or.jp

今回は、寒い時期にピッタリな、あつ中華まんに挑戦!

■こんぶりちえ倶楽部 第3回 男の料理教室

日 令和7年1月23日(木)
時 13:30~15:00(受付13:00~)
場 所 平鹿支店 2階会議室
内 容 『過去の災害から考える防災』
『避難所支援と在宅避難のそなえ』
講 師 日本赤十字秋田短期大学 及川 真一氏
申込期限 令和7年1月15日
申 込 各営農センター又は食農販促課
園食農販促課 ☎0182-23-6540

JA管内の女性を対象に女性交流会を開催いたします。内容は防災についての公演を予定しております。

■女性交流会 参加者募集

JAの概況

Situation

組合員数 17,468人
(正組合員) 11,507人
(准組合員) 5,961人
貯金 1,257億1,302万円
貸付金 395億4,586万円
購買品取扱高 39億4,772万円
販売品取扱高 193億4,977万円
共済保有高(保障) ... 3,136億5,505万円
(2024年11月末現在)

新年明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願ひいたします。
令和6年には、JA秋田ふるさと公式マスコットキャラクター「ふるっぴ」が管内のお子様方からのアイデアから誕生いたしました。様々なイベントで「ふるっぴだ!」と嬉しそうに駆け寄るお子様方を見ると、自分ごとの様に嬉しく思います。令和7年も管内の農畜産物のPRを沢山行うことでしょう。お子様方はもちろん大人の皆様にも、さらに愛されるキャラクターに育って欲しいと願っています。
(次)

編集後記



JA通信 ふるさと

発行/秋田ふるさと農業協同組合
企画/編集/食農販促課 〒013-0205 横手市礎河川町今宿字前田面20
印刷/㈱全農ビジネスサポート秋田支店

TEL / 0182-23-6540
FAX / 0182-23-6501
E-mail / fu.staff@akita-furusato.or.jp

秋田ふるさと

検索

検索サイトでJAのホームページに簡単アクセス!